

未来の鍵新聞

二〇一〇年十月に愛知県名古屋で開かれた生物多様性国際会議(COP10)。そこで話し合われたり、決まった事を通して、さまざまに生き物が助け合って暮らすにはどうしたらいいか考えよう

© Sato新聞社 神奈川県 佐藤 悠希

地球温暖化 生物多様性の危機

陸や海・森の生き物や植物を守るために

先進国 生態系の損失で自然の働きがおとろえる事を心配

途上国 生態系保全の取り組みが貧困から抜け出すための開発をおさえてしまう事を心配する

VS

途上国は、豊かでない先進国は、環境問題にも関心が高くお金も使える。ところが

途上国は、開発も進み、国も豊かでない先進国は、環境問題にも関心が高くお金も使える。ところが

途上国は、開発も進み、国も豊かでない先進国は、環境問題にも関心が高くお金も使える。ところが

た先進国も多りのに途上国が開発にのり出すと、自然破壊だと言いつつ止めにくろ。それならお金で支援を約束するの

人間だって多様な生物の一種類

生き物は互いに支え合って生きている

は当然だ。日本は五年間で五十億円の「日本基金」として途上国を支援することになった。日本たつて、大変な時代なのに地球全体のことも考えられる。日本人はエライ

COP10はゴールではない

① 世界中でどの位の広さの自然を保護すればいいのかわかるか。

② 自然を守るためのお金をどう用意するか。

③ 資源を持つ国と利用した国で利益をどう分け合うのか。

④ 自然・科学の研究を地球全体でどう役立てるか。

⑤ 新しい仕事として利益を出せるように自然の保護を組み合わせるか。

二〇二〇年までに前進することをみんなが約束した。

数字や形で見ると、結果を出すために、国内では法律が作られ、国家戦略が作られる。

出来る事から始める

生きている事は食べる事。いたただきます。は命をいたただくことだ。小さな生物に目を向けて、自然に感謝して毎日残さない。エアコンをがまんする。車に乗らない。小さな積み重ねが必ず自分にもどって来る。まずは、気付いたら自分で行動しよう

日本が急いで取り組むこととして

キーワード

生物多様性

生物がさまざまに異なること。遺伝子・種・生態系の複雑な関係が「生物多様性」を産み出す。

生物多様性 国際会議

2010年10月 COP10

生物多様性条約の第10回国際会議(愛知県名古屋で開かれた。)

1992年ブラジルの地球サミットで決定。

① 生物多様性の保全

② 生物多様性の持続可能な利用

③ 遺伝子を利用する事による利益を公平・公正に分け配る

参加国は193ヶ国・地域

名古屋議定書

企業が医薬品や食品の開発につながる動植物や微生物を利用した場合、資源を持つ国と利益を分け合う国際ルール

愛知ターゲット

- 2020年までに陸の17%、海の10%を保護区にする。
- 絶滅危惧種の保護を強化する

やりがいのある農・林・水産業

ただ自然を守ろうと言うだけでは今の状態は良くならない。農業で体を使い、働いた分、しっかり給料をもらえたり、環境保護に取り組みながら生計を立てている林業、漁業の人の税金の仕組みを良くしてあげるといふような「ほほほ」も必要だ。若者が未来を夢見られるような仕事になるようにしたい。ぼくとしては曲々な水源を守る林業を大切に考えたい。

里山の保全

里山イニシアチブ

人間と自然が共に生きるための方法として注目される国際モデル。林や森の木を間引く事で地上に光が届きやすくなり多様な動物や植物が育つ。何もしない原生林よりも生態系が豊かであるという。木林から田んぼ、集落が輪のように作られ、熊や鹿など野生動物との境界もできる。古代から農業で国づくりをしてきた日本の良さをもう一度見直そう。

誰でもできる身近な小さなこと



はげなかつた上はきは、ティートのくつ売り場に持って行く。買い物の割引券に交換してくれるのだ。集めた上はきはまとめてNGOやNPOに送りつけアフリカの子供に届くのだ。最近、ランドセルを集めるNPOがあると聞いた。3月で小学校卒業する全国の6年生の学校の鐘になるらしいと思う。



未来の鍵は僕たちが持っているんだ。

僕たちに残ったあまりの良くない宿題が地球温暖化と、生物多様性が失われていくこと。人間は自分の都合で開発して、その後、問題にならざるに次の世代へこの責任を子供に押しつけてきた。大人でいることもある。

ハワードスターの様に自分が豊かにならないうちやボランティアなどでお返しする気持ちを、見せて小さな国々を助けて欲しいと思う。日本と一緒にかんぽろう。

今後の生物多様性国際会議は2012年 インド・ニューデリーで開催。アフリカ 次からは参加してくれるかな?